

(国語)

自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成
—読解と表現を意識した説明的文章の指導方法—

大阪市立南市岡小学校

1. 研究主題設定の理由

令和2年4月1日に施行された新学習指導要領では、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すとし、確かな学力を育成し、豊かな心や健やかな体を育成することを基本方針としている。そのうえで、以下の3点を三つの柱として重視し、目標や内容が設定されている。①育成を目指す資質・能力の明確化「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」②「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」である。

本校では、「はっきり言える子」の育成を、めざす子ども像の一つとし、自らの思いや考えを伝えるために「話す・聞く」力の育成を目指している。自分の考えを相手に伝えるためには、まず、言葉の力や意味について理解し、自分の考えを文章等で書いてまとめるという「読み・書き」の基礎基本の国語力を身につけることが重要である。それに加え、必要な情報を集め、整理し、活用することも、自分の思いや意見を伝えるために必要となる。そこで、学習指導要領で求められている「理解していること、できることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力の育成を重視しながら、取り組みを進めていくこととした。

2. 研究の趣旨

令和2年度から、研究教科を国語科に設定し、説明的文章の指導法の研究を進めてきた。まず、「教材分析委員会」を設置し、児童が言葉や文章の構造を理解し読み深めるための工夫や、児童が自分の思いや考えを表現することができる言語活動のあり方を、教材分析を通して研究した。児童は、文章の構成を意識しながら読み進めたり、目的に応じて要約したりすることができるようになった。また、言語活動については、リーフレットや紹介文などの形式で、自分の意見や調べたことをまとめることができるようになった。

しかし、本校の経年調査の結果から、「読み」の領域では、段落相互の関わりを意識しながら文章の内容を捉えたり、情報と目的を意識して要約したりすることに課題があり、「書く」においては、指定された言葉を使用したり、決められた文字数で簡潔にまとめて書いたりすることに課題があることがわかった。

このことから、昨年度と同様の研究体制及び研究主題を設定することとした。説明的文章の学習を通して、児童が文章の内容や構造を読み取り、得た情報を理解して活用しながら、自らの思いや考えを書くという学習活動をさらに進めていく。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 教材分析と発問の工夫

- ・ 学習指導要領など基本的事項の分析
- ・ 1時間の学習や基本的な流れの共通理解
- ・ 文の構成について理解を深めるためのノートやワークシートのあり方について
- ・ 本時のねらいに迫ったり、思考を深めたりする発問について

視点② 答えではなく、自分の言葉で説明ができるための工夫

- ・ 尋ねられたことに答えるのではなく、なぜそう思ったのかを説明できるための工夫

視点③ 基礎基本となる言葉の力を身に付けさせるための工夫

- ・ 児童が主体的に取り組みたいと感じる言語活動の設定

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○教材分析と発問の工夫について

- ・ 教材分析委員会を設定し、指導案作成前から授業者と一緒に教材分析に取り組んだことで、全教職員が意欲的に研究に取り組むことができた。
- ・ 教材分析シートをもとに各々が分析した上で、教材分析委員会を行うことで、参加者全員で教材文について意見を交流することができた。教材に対する理解を深め、教材分析の重要性を再確認することができた。
- ・ 児童が説明的文章を読むための能力を育むためには、言葉の意味や接続語、段落相互のつながりを考える取り組みが必要であるなどの視点を明確にすることができた。
- ・ クリティカルリーディングを促す発問を積極的に取り入れたことで、自分の意見をもつために本文を繰り返し何度も読む児童の姿が多く見られた。
- ・ 児童が、自分の意見を書くことができるようにワークシートを工夫することができた。

○答えではなく、自分の言葉で説明ができるための工夫

- ・ クリティカルリーディングを促す発問の際、児童が自分の意見を書く時間をもつことができるような授業展開を工夫した。その結果、本文を読み返ししながら、自分の考えを書く児童が多く見られた。
- ・ 児童が意見交流するための工夫として、ペアやグループで行ってから全体での意見発表の場を設定した。そうすることで、意見を発表する児童が増えてきた。
- ・ 自分の言葉で説明するための手立てとして、基本的な話型を各教室に掲示している。その結果、自信をもって自分の意見を表現する児童が増えてきている。

○基礎基本となる言葉の力を身につけさせるための工夫

- ・言語活動の場の設定として、児童が取り組みやすい活動を考えることができた。言語活動で児童に身につけさせたい言語力を教材分析委員会で共通理解したことで、児童が言語活動への見通しをもって学習に取り組むことにつながった。
- ・並行読書を進めながら、読書カードを工夫したり、ノートを活用したりして、心に残ったことを書き留める活動を行った。書き留めたことを、児童は、言語活動の場で活用し、主体的に取り組むことができた。
- ・児童は、図書やインターネットで調べた資料をもとに、内容を要約して書いたり、教材文の言葉を活用しながら自分の考えを書いたりすることができた。
- ・言語活動において、発表する対象（誰に）を児童に意識付けたことで、相手に伝わるような文章表現を考えながら取り組むことができた。

(2) 今後の課題

○教材分析と発問の工夫

- ・教材分析委員会において、ICT 機器の活用やデジタル資料の見せ方などについて、十分に検討する時間を取れなかった。今後、ICT 機器を活用した授業展開を行うための手立てと準備が必要である。
- ・クリティカルリーディングを促す発問では、児童の考えを予想していたが、自分の意見をもてない児童もいた。本文の文章構成を理解したり、読み深めたりする授業展開について、さらに工夫する必要がある。
- ・1時間の授業で指導者の評価規準が明確になっておらず、児童の読みに対して深めたり広げたりする声かけができなかった。重要な言葉や文に着目しているかなどの評価規準を明確にして取り組むことが必要である。

○答えでなく、自分の言葉で説明ができるための工夫

- ・ハンドサインを活用していたが、どの場面で活用できるか指導者が予め考えておく必要がある。
- ・自分の意見を書く際に、なぜそう思ったかという根拠を明確にして、書くことができた児童は少なかった。普段の授業でも、自分の意見とその理由を書いたり話したりする活動の積み重ねが必要である。
- ・ペアやグループ、全体交流は、活動時間に注意し、より効果的な場面や時間配分を想定する必要がある。

○基礎基本となる言葉の力を身につけさせるための工夫

- ・ICT 機器を活用した言語活動を取り入れるにあたり、十分に検討できていない面があった。児童の実態や時間配分に注意し、今後も、一人一台端末を活用した言語活動の工夫が望まれる。
- ・言語活動において、グループ活動を行う場合は、調べることを明確にしたり見通しを持たせたりすることで、どの児童も主体的に取り組むことができるよう、さらなる指導の工夫が必要である。